

洞爺湖有珠山ジオパーク・ストーリーカード『大地と食のものがたり』

洞爺湖有珠山地域では、独自の気候風土で育まれた、さまざまな産品が収穫されています。大地とのつながりを知り地域活動に生かすことを目的としたジオパークの視点から、これらの産品を見ると、産品にまつわる「この土地ならではの物語」が見つかります。洞爺湖有珠山ジオパークでは、そのような物語を集めて、次の4枚のカードを作りました。

大地と食のものがたり 23 オロフレトマトは語る 温泉とトマトの “一石二鳥”な話

オロフレ山のふもとでは、真冬にトマトが作られています。栽培用のハウスに温泉水を引くことで、北海道で一番早い2月からトマトを出荷。ハウスを通った温泉水は、さらに浴場や病院に引き込まれ、地域の暮らしを暖めます。



大地と食のものがたり 21 越冬玉ねぎは語る 火山と玉ねぎの “冬支度”な話

伊達市では、あま〜い玉ねぎが育ちます。有珠山から噴き出した軽石を多く含む、水はけの良い土と、伊達市のほどよい気候があいまって、越冬栽培を可能にします。玉ねぎは、冬の寒さに耐えながら、糖度と栄養素をぎゅっと高めておいしくなります。

大地と食のものがたり 22 豊浦いちごは語る 火山灰台地とイチゴの “陽当たり良好”な話

豊浦町には、イチゴが大好きな日当たりのよい台地が広がっています。ここは大昔に火山から噴き出した、火山灰で覆われた丘陵地。イチゴはゆるやかに連なるこの丘で春の陽をいっぱい浴び、赤く甘くなるまで待ってから収穫されます。



大地と食のものがたり 24 エゾバフンウニは語る 山崩れとウニの “快適生活”な話

有珠山のふもとにある岩礁地帯は、大昔に有珠山が崩れてできた場所。ごつごつした岩場に根を張って、昆布は海底にじゅうたんのよう広がります。岩が波をやわらげ快適な環境で、エゾバフンウニは昆布を食べておいしく育ちます。

ジオパークの絵本「11万年前のうえの1日」

火山の噴火や、まわりの地下の世界がどのようなになっているのか、私たちはあまり知りません。その中身を覗き、地上世界との関係をひも解くと、さまざまな物語が見えてきます。洞爺湖有珠山ジオパークでは、このような『大地の物語』をまとめた絵本『11万年前のうえの1日』を作成しました。ストーリーカード『大地と食のものがたり』は、この本と合せて読むと、もっと地域のこと、ジオパークのことを、知ることができます。

